

要 旨

試 験 委 託 者 : 環境省

表 題 : トリクロロ酢酸エチルのヒメダカ (*Oryzias latipes*)
に対する急性毒性試験

試 験 番 号 : A 0 1 0 4 6 9 - 4

試 験 方 法 :

- 1) 適用ガイドライン: OECD 化学品テストガイドライン No. 203「魚類急性毒性試験」
(1992年)
- 2) 暴 露 方 式 : 半止水式 (24時間毎に試験液の全量を交換)
水面をテフロンシートで被覆
- 3) 供 試 生 物 : ヒメダカ (*Oryzias latipes*)
- 4) 暴 露 期 間 : 96時間
- 5) 試 験 濃 度 : 対照区, 20.0, 30.0, 45.0, 67.0, 100 mg/L
(設定値) 公比: 1.5
- 6) 試 験 液 量 : 5.0 L/容器
- 7) 連 数 : 1 容器/試験区
- 8) 供 試 生 物 数 : 10尾/試験区
- 9) 試 験 温 度 : 24±1 °C
- 10) 照 明 : 室内光, 16時間明 (1000 lux以下) / 8時間暗
- 11) 分 析 法 : ガスクロマトグラフィー (GC)

試 験 結 果 :

1) 試験液中の被験物質濃度

被験物質は、水中においてすみやかに消失 (半減期 51 分, 100mg/L 精製水) することが確認され濃度維持は極めて困難であったため、仕込量の確認として暴露開始時のみ分析を行った。暴露開始時の測定値の設定値に対する割合は 52~57%と低く、半減期が短いことに加え、揮散した可能性も考えられた。結果の算出には設定値を用いた。

- 2) 96時間暴露後の半数致死濃度 (LC50) : 44.3 mg/L (95%信頼区間: 37.4 ~ 52.5 mg/L)